



輝け！

よこすかの
子どもたち



第10号

2016.10

P 1～2 歴史的遺産の活用 （ ※ 日本遺産認定 ）

～ 地域の教材を通して学ぶ ～

P 3～4 防災教育の充実

～ 自分の命を自分で守ることができる子どもを育てる ～

P 5～6 子どもの読書活動の充実

～ 学校司書の配置による学校図書館活用の推進 ～

P 7 就労支援のための合同学習会

～ 障害のある児童生徒のライフステージに沿った相談支援体制の確立 ～

◆ 横須賀製鉄所(造船所)から、先人の思いを学ぶ

現在の米海軍横須賀基地周辺には、1865年に建設が開始された横須賀製鉄所(造船所)という造船施設がありました。

横須賀製鉄所には、日本初となる石造りのドライドックが建設され、数多くの船を建造、修理してきました。日本の近代化は、横須賀製鉄所から始まりました。



※ ドライドックは、米海軍基地内にあるため、通常の見学はできません。

日本の夜明けは、横須賀製鉄所(造船所)から



【 米海軍基地内にあるドライドックの見学 】

博物館の特別展示「すべては製鉄所から始まった」、文化会館のパネル展示「小栗上野介と横須賀製鉄所」を見学するとともに、ゲストティーチャーの話から小栗上野介の業績について学びました。

また、ヴェルニーについても市が発行している小冊子等から、その業績について学びました。



【 横須賀市自然・人文博物館 特別展示の見学 】



【 学んだことを生かして、学びを深める授業 】

まとめの授業では、見学などで学んだ知識をもとに、「小栗上野介はどうして横須賀造船所をつくったのだろう」という問題に対して、それぞれの考えを出し合い、学びを深めました。

この学習が終わった後に、市内で開催されている歴史講座に自分から申し込み、学びを継続している子どもの姿も見られたそうです。学校では、『主体的に、自ら学ぶ子ども』を育てています。

◆ 中学校 社会科研究会 フィールドワーク

夏季休業中に、中学校の先生たちが国の史跡に指定されている「千代ヶ崎砲台跡」において、研修を行いました。「千代ヶ崎砲台跡」は、日本の近代化初期の建築や土木技術を現在に伝える貴重な史跡です。本市にある歴史的遺産を、どのように子どもたちの学習につなげていけるのかという視点で、先生たちは研修を行っていました。このフィールドワークには、小学校の先生も参加をしていました。



※「千代ヶ崎砲台跡」は、現在、一般公開をしていません。



トンネル内の横の壁を見ると、出入口付近に2種類のレンガが使われていることがわかります。色が濃い(こげちゃ色の)レンガを「焼過レンガ」といいます。高温で焼くことによって、撥水性を高めています。(手間がかかるため、値段は高くなります。) この「焼過レンガ」を、雨水が直接あたる出入口の部分に、雨が吹き込むことも考えて斜めに積んで使用しています。史跡のところどころに、建築技術の改良と発展を見ることができます。

横須賀市 日本遺産認定

「^{ちんじゅふ}鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴
～日本近代化の^{やくだつ}躍動を体感できるまち～」

本市は、鎮守府が置かれたまちとして、呉市、佐世保市、舞鶴市と共に、「独自の発展をとげつつ、日本の近代化を推進したまち」というストーリーをまとめ、日本遺産の共同申請を行いました。

平成28年4月25日、旧軍港四市によるこのストーリーが、審査を経て、日本遺産に認定されました。

※ 鎮守府とは … 軍港の防備をつかさどる司令部



上の写真は、1865年の横須賀製鉄所創設と共にオランダから輸入したスチームハンマーです。近代造船の第一歩を記す遺産で、平成8年までの約130年間、使われていました。本市には、この他にもたくさんの歴史的遺産があります。

横須賀市の日本遺産認定について

横須賀市 日本遺産認定

検索

■ 防災教育の充実

◆ 各学校の実態に応じた「防災教育」

本市では、「自分の命を自分で守ることができる子ども」の育成を目指して、各学校において、学校の実態に応じた防災教育の充実を推進しています。

中学生の力を生かし、地域の防災力を向上させる



【 地域連携防災デー 】



【 武山連合町内会の訓練 （写真は平成 26 年度） 】

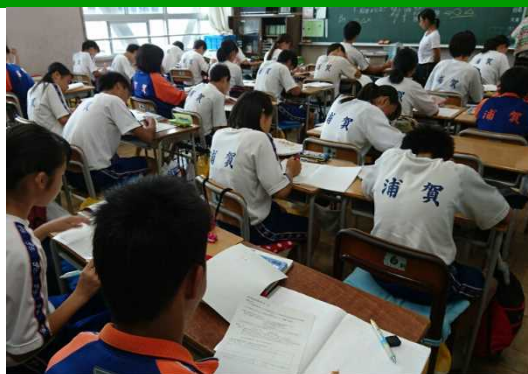
武山中学校では、『地域連携防災デー』の取り組みを行っています。全ての生徒が 18 の町内会にわかれ、地域の方々の指導のもと、「町内会の防災倉庫の点検」、「発電機の試動」、「テントの組み立て」、「炊き出し」など、町内会ごとのプログラムで学習を進めています。

また、武山地区では、毎年、順番で武山中学校、富士見小学校、武山小学校を会場として、地域の防災訓練と避難所運営訓練を行っています。今年度は、9 月 24 日(土)に、武山小学校を会場として実施し、武山中学校の 2 年生が参加する予定です。地域も学校と一緒に、中学生を育てながら、中学生の力を生かした「地域の防災力の向上」を図っています。

一人一人が、自分にできることを考える



【 生徒会と演劇部が中心となった全校集会 】



【 一斉に全クラスで行った防災に関する授業 】

浦賀中学校では、熊本地震を受け、生徒会の役員が自分たちにできることを話し合い、地域での募金活動を行いました。募金活動の中で、現在、横須賀市で生活をされている熊本出身の方から、「熊本のためにありがとう。」と声をかけられたそうです。募金活動をしなが、改めて自分たちの町で地震が起きたときに自分たちはどのような行動をとることができるのかを考えさせられ、生徒会と演劇部が協力をし、全校集会で問題提起をしました。それを受け、全クラスで、「町のために、自分は何ができるのか。」について話し合い、理解を深めました。

◆ 全市一斉の「防災訓練」を実施

5月10日(火)の10時に「震度6強の地震発生、その後、大津波警報発令」を想定し、全市立学校と教育委員会の合同防災訓練を行いました。学校に整備している携帯電話(災害時優先)を活用し、各学校は避難した場所から教育委員会と連絡をとり、情報の共有を行いました。各学校の実態によって、訓練の内容は異なります。ここでは、夏島小学校の高台避難の様子を紹介します。



【 ① ゆれがおさまるまで、身の安全を確保 】



【 ② 大津波を想定し、高台へ避難 】



【 ③ 高台にある「浦郷3丁目公園」で待機 】

浦郷3丁目公園に避難を完了した後、校長先生から「昨年と比べて、避難にかかった時間は2分間短くなりました。これは、とても大切なことです。この2分間で助かる命がたくさんあります。」と話がありました。

学校では、さまざまな場面を想定し、防災教育を行っていますが、地震が起きるのは、子どもたちが学校にいるときとは限りません。ぜひ、ご家庭でも、具体的な場面を想定し、話題にしてください。

避難階段の設置

右の写真は、地域の要望を受けて、平成25年に夏島小学校の校庭に設置した避難階段です。

夏島小学校は海に近く、低地にあります。大きな地震後の大津波を想定し、子どもたちが短い時間で低地の校庭から高台に避難できるように、避難階段を設置しました。



■ 子どもの読書活動の充実

◆ 学校図書館活用の推進

池上小学校では、学校司書が配置される以前から、保護者による図書ボランティアが、環境整備や読み聞かせ、図書の受け入れなどを行い、子どもたちの読書活動をサポートしていました。

学校司書が配置されたことによって、授業を中心とした図書館指導が充実し、子どもたちの読書の幅が広がっています。

図書ボランティアによる環境づくり



子どもたちが、教室から図書館へと向かう廊下の出窓や小さなスペースには、本を紹介するコーナーがつけられています。壁面の飾りは季節ごとに変わり、その時期に合った本も並べられ、子どもたちを本の世界へと誘います。

学校司書による図書館利用に関する指導



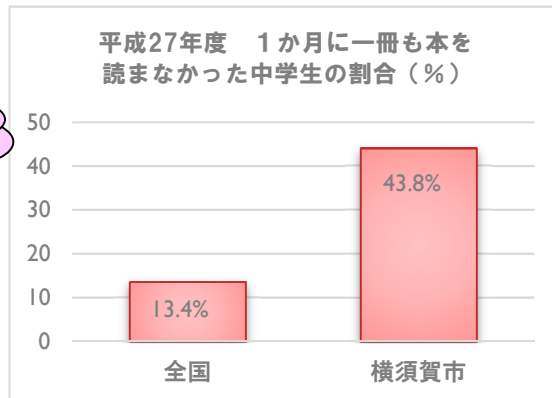
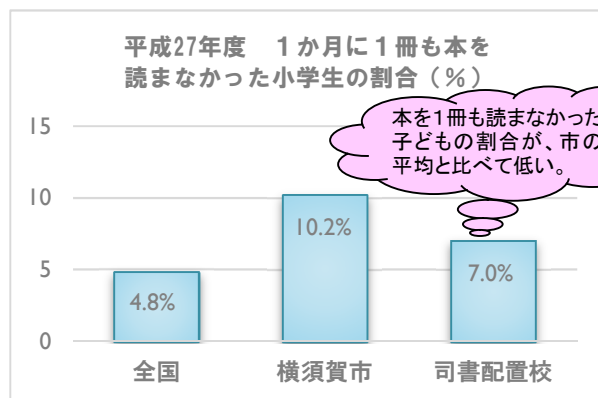
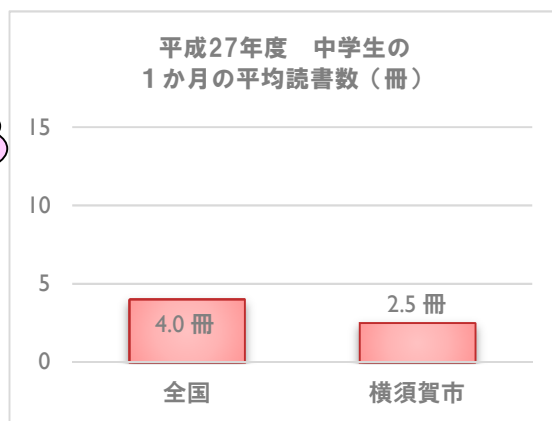
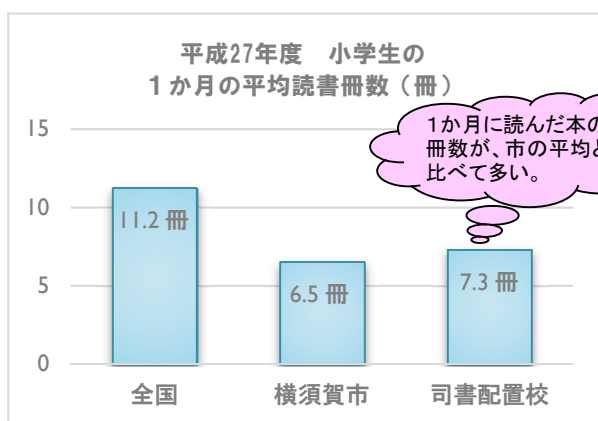
学校司書と担任の先生が協力して、授業を行っています。図書館の本は、利用しやすいように、分類のルールにしたがって、整理されています。図書館利用の第一歩として、「自分が必要とする本を自分で探すことができる」をめあてに授業を行いました。子どもたちは、背表紙のラベルの数字をたよりに、本を並べ、分類法について学びました。

子どもたちが調べ学習をする際、学校の図書館にある本だけでは足りない場合には、必要とする本をあらかじめ市立の図書館から借りておくなど、学習に関する準備も行っています。

◆ 学校司書の配置により、子どもの読書活動が充実

本市の小中学生は、全国の小中学生と比べて、1か月に読む本の冊数が少なかったり、1か月に1冊も本を読まない子どもの割合が高かったり、子どもの読書活動に課題が見られます。

平成24年度からモデルとなる小学校への学校司書の配置を進めてきました。平成27年度には、小学校12校をモデル校として、学校司書を配置しました。学校司書を配置した12のモデル校では、子どもの読書活動に成果が見られました。



※ 全国平均 … 「第61回 学校読書調査」、市平均・司書配置校平均 … 「横須賀市 読書実態調査」
〔対象 … 小学校4～6年生、中学校1～3年生〕

これまでの成果を受け、全小学校に「学校司書」を配置

平成28年度から、市立の全ての小学校(46校)に学校司書を配置しました。

学校司書を継続的に配置してきたモデル校では、「学校図書館の来館者数」「本の貸し出し数」が増加しています。全ての小学校への学校司書の配置により、本市の子どもの読書活動の充実が図られることを期待しています。



就労支援のための合同学習会

相談支援チームの活動の一環として、障害のある児童生徒の就労にスポットを当て、保護者、教職員や関係機関の方々を招き、就労に向けた具体的な支援方法を探ります。そのことを通して、障害のある児童生徒のライフステージに沿った相談支援体制を確立します。

【事業のねらい】

- (1) 本事業を通して、教育、福祉、保健、医療、労働等の機関が一体となった相談支援体制を確立します。
- (2) 障害のある児童生徒の就労に向けた意欲を高めるため、関係諸機関が連携して支援者のサポートをします。
- (3) 障害のある児童生徒の支援者が、就労に関する知識や情報を得る機会とします。
- (4) 「就労支援者のための合同学習会」を定期的に開催することで、本市の特色ある事業として位置づけます。



【全体会 情報提供と実践報告】



【分散会 グループに分かれての協議】

※ 相談支援チーム … 障害のある子ども、配慮を必要とする子ども及び保護者を支援するためのネットワークシステムの構築や具体的な方策についての研究及び事業を行うことを目的として、平成13年に設立した組織

平成28年度「就労支援のための合同学習会」

- 日時 平成29年1月14日（土） 13時00分～16時30分
- 場所 横須賀市立総合福祉会館 5階
- テーマ 「多様な進路に向けての早期からの取組」
- 連絡先 横須賀市教育委員会 支援教育課 046-822-8513

広告

〈編集・発行責任者〉

横須賀市教育委員会事務局

教育総務部総務課 教育政策担当

〒238-8550 横須賀市小川町11番地

TEL：046-822-9709

FAX：046-822-6849

E-mail：sc-real@city.yokosuka.kanagawa.jp

◇ この冊子についてのご意見や感想をお寄せください。

